

平和と福祉のために即時停戦と話し合いの場を  
ロシア政府決定によるウクライナ軍事侵攻を非難し  
命の尊厳を守る文化創造を願う

日本福祉文化学会理事会

私たちは、ロシア政府決定によるウクライナ侵攻を非難し、即時停戦と話し合いによる平和的問題解決を強く訴えます。

今回のロシア政府決定によるウクライナへの侵攻は、ヨーロッパにおいて、ナチス以来の大規模な軍事侵攻となっています。ウクライナでは民間人も含め、多くの命が奪われ、幸せに生きる権利をはく奪され、平和や福祉が脅かされています。

私たちは「平和なくして福祉なし」という象徴的なフレーズとともに、これまで様々な活動を行ってきました。「戦争」を、福祉＝人々の幸せを脅かす最悪のものとして考え、それに代わる文化のあり方について、希求してきました。

このたびのロシア政府決定によるウクライナへの軍事侵攻と核兵器の使用の示唆は、明らかに多くの人々の命の尊厳を脅かすものであります。ここに改めて、人々の幸せを保障し、すべての人々の命の輝きを絶やさないようにする福祉文化を創造するために、このたびのロシア政府決定による軍事侵攻の即時中止を求めます。そして平和と連帯の文化が、広がることを願います。